

350

7億9千5百万円で8年間

の意見を反映していく役割りをなす
つもので、重要な機関です。
この審議会は条例によつて、各工
区ごとに置かれ、それぞれ、平塚

[illegible]

須賀南工区＝大字須賀（河端・
札幌南・大浜の一部）五万一千
五百平方メートル、航空灯台下から
湖南大橋たもとまでの未整理地
区一帯で、これが完了すれば、
須賀は、新宿・馬入とともに、

現に人や物言もかんたんに
いる蘭臺で、いちばん、事故
原因となっているものだから
必ず縫のかかる箱にしまって
管し、取り扱いには、細心の
意を払うよう心がけてほしい
テップ剤（ニツカリンT、エ

と千日たちますと、地主さんと土地を借りている人は、備地人の土地を借りている人は、なかから委員を立揚の立候補者のなかから委員を選び、一週間一般に公開します。この選ぶことになります。委員の任期の名が、審議会委員選挙の選挙は三年です。

つぱいで被保険者としての資格を失なうことになります。至急、新住所を、国民健康保険課へお知らせください。

元住所・平塚一四五〇田辺 博
／＼ 平塚一九五五岩沢浅雄

都市計画課





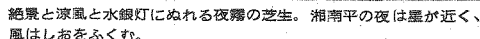
陳情のニユースタイル

市民の大きな声・公正をなくしていくはまずです

説明の早かった地域からは、すでに、十数件の広聴事項が、市役所へもたまれ、処理されつゝあるります。市長と語り合つていたたてく歩く市役所とならんで、この広聴用紙制度が軌道にのつていけば、市民の要求にむきついた行政、ガラス張りの市政という理想がより具体的なものになつてくるほか、陳情行政という悪名も影

今月は、松原正義委員会の田野一男委員長・内田亀太郎副委員長と山口夜の湘南平を味っていただきました。

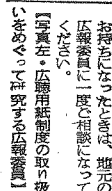
広報
 今夜の蘭開平を眺つていたところだ。
 (山口特派員) 制世界に來たようだ。八月一日夜
 中だつた。ラジオは二十四、五度
 と繰り返していた。だが、今、こゝ面
 開平の山頂に立つてゐるからである。
 雨雲をお空は星ならしく垂
 れ、四の山ははじこめの闇の中
 茫茫と、見えがけの上で静かに



の墨を噴出しつゝ、
逆さなりて一面を叩かれて私は更に
進んで来た。車頭。天の夜
の景観。湘南平の地にこれに上りて
所立った。背後の約五里と
かいた春の生花は百萬の螢光
灯に映へなすなり。時流流
れ懸る雲が四圍の螢光の光を
液にならめて飛散を照らる。

前画面には花より口口に螢の線
を劃いて提燈が映ひてゐる。
その脱線が螢のたゞの光にナ
シヨナルト場が大きな白い空
間のよへ浮き上せてある。右
は大磯船師の丘、左は鎌倉等山
が黒く閉ぢて來てゐる。

この一葉繪が川原より我井家市
街地の光海まで。何方の光
は風に風の色を出し、群つて



汗線のない豚

乳牛も暑さに弱い

事實、アツイ、アツイとぼし
 ているのは、人
 間まだげは
 骨髄液がないで
 家畜たちの飼て
 家畜たちの、な
 らぬ、そのんで、ま
 じめに、家畜の主治
 手です。

たいぬ。日陰がないときは
 直壁の水を、自由に、十分に
 めるようにつくとも。

牛舎は風おしをとり、窓
 には風を遮って、蚊・虫・
 ・はえなを防ぐ。これができ
 ないときは、牛の飼ひに、R
 H・C・D・Tなどの殺虫剤を
 きかけ、防いでやる。

又飼料には、青草類を用いて、

牛は暑さにあんが弱く、暑すぎると乳量が減る。またさらされると日射病を心配すること、冬に備えて本力をつけていてやるのが大切。

豚は、皮下脂肪が厚く、汗線がほとんどない。暑さにはあんが強い。冬に備えて本力をつけていてやるのが大切。

往復50円で買える涼

江の島の水
が孤を圍
く。正に光
のきよう寧
であり、光
る大きな箱
庭である。



田野特派員



内田特派員



山口持成
(新齊研 足利)

私共は三
五五、五を
はてお入
の間にこ
もゆかい
一軒を見
した。野
の卓上持
のつまみ
。山崎人
目にも若
の悦に入り
うが、夏
ハラスに

類がてりて涼をさへ。雪入人遠
藤とは内田にさへ答へいられ
る。「平塚駅へ往復五円中で買
る納涼を」。終車は雨平。
(この間三十分)。この涼め
な。家族は皆最過です。不
良なておきせんとし。市価並
にあり。が藤の家族はルッ
に困らんを告げかけている。この
他建設に多大な功業を惜まれな
定入れて聞てくる。この言な
る。信じてよい。観光バス数台で
遷近県が訪れてる。昨今とい
うが、夏の涼平は、更によ

肥
乏
た
豚

肥えた豚になりたいか、豚よりも、やせても人間でありたいか

師を誦 貴 池田政次、堀場から出掛を
ねがて、もう一度歸郷として
池田政をいでもらうことに
してはうす。それどころがら
こなり、税はやすくなり、五
穀豊穡、商賈昌、家安寧、無
事無事とことになはれ、それ
で方ではあまません。やれ還
郷の、や國会だの、そんな
まで入るす……。等と誦か
れた。そして語は終つた。あ
ふ、とらにこおつた。

この人たちは、自由の意味は
でな「人民政治」の意であ
が、ぼつと「実感」にはじめ
いのである。若人は有學で
一澤生、生田の語より

平常日にも散水を
七夕まつりのときだけでなく、交通量の多い街路へ、平常日にも散水してほし。

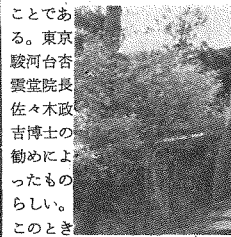
(平塚新宿松竹通り丁・M)

お答え 現在、市の散水車は1台しかがってご満足いただけるようまでいきませんが、ご指示のあった場所へは、できるだけ配車します。

ただし、防じん舗装のころは、水が弱い同舗装を守るため、散水できません。また平塚競輪の開催中は競輪場へ所属し、競輪場周辺の散水に当たると、他へ配車したしかねます。ご了承ください。

樗牛が滞在
していた家
高 瀬 慎 吾

明治の文豪高山樗牛が平塚海岸杏雲堂の診療をうけるため来塚したのは明治33年9月11日の



樗牛は平塚海岸通りの翁家旅館
 に滞在した。同月23日には親友
 の笹川臨風がここに樗牛を訪問
 している。秋雨がうとうとしく
 幾日もつづいて厩上の樗牛は不
 機嫌でいたらしい。わが身の不
 運に悶々としていたからでもあ
 る。樗牛は30才だった。半月ほ
 どいて静岡興東津に転じた。
 この年12月13日樗牛は佐々木
 博士の意にしたがい、メートル

の注射をうけるためふたたび翁家旅館へやってきました。このたびは旅塚に適當な借家を得て明春2月末まで居住したいともらしていたが、牯牛の希望に添いいうる家になかったためか12月23日大磯町に移っていった。その後牯牛は鎌倉に寓居を構えたが診察の都合によって宿泊するときはかならず翁家旅館に宿をとった様子である。



翁家旅館は明治29年にはすでに開業していた。じらゝい65年余を経た建物が犂牛滞在當時そのままのかたちで保存されている。平塚海岸岬崎浜13番地田中四郎氏の住居でいまは旅館ではない。2階の南に面したいちばん良い部屋がたぶん犂牛の寝泊りしていた室であらう。おしやれで豪奢を好んだ人であったから室も良いところを選んだにちがいない。

この建物はぜひとも保存したい。近く建碑する予定である。

神奈川県公明選挙標語入選作品

横浜本町小四年 林 幸 広

KEIRIN
KEIRIN
KEIRIN

平塚

8/ 19.20.21.22.23.24